

野々村邦夫の
駅弁地図学

第8回

試し読み

掲載記事の一部を
ご覧いただけます

ひっぱりだこ飯

(山陽新幹線西明石駅)



明石は、海峡の町です。明石海峡は、津軽海峡、紀淡海峡、鳴門海峡、来島海峡、関門海峡などと並んで有名な日本の海峡の一つです。ここに示した海峡の中で、ある意味で明石海峡だけが例外です。他の海峡はみな、異なる都道府県の間にある海峡ですが、明石海峡だけは、その両岸が同じ兵庫県です。

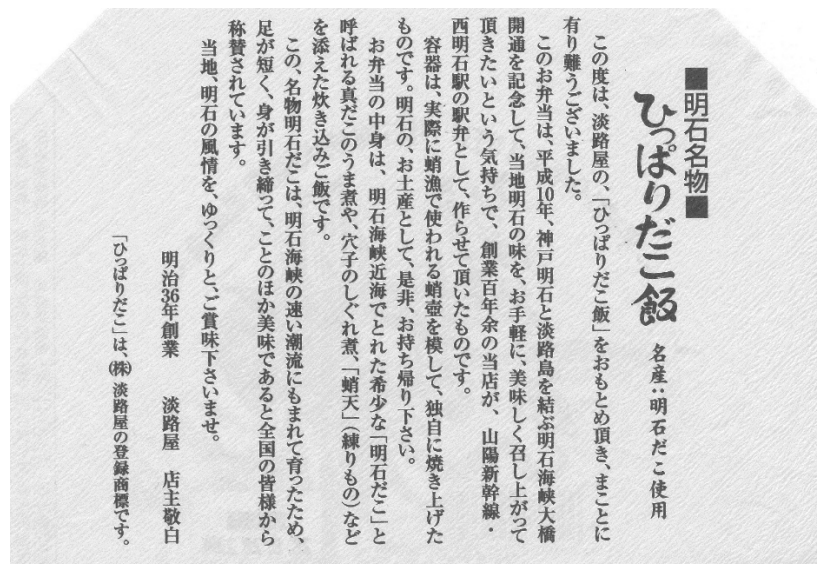


図1 ひっぱりだこ飯。中身(左)と掛け紙の裏面説明書き(右)

明石海峡は、その激しい潮流のお陰で、海峡ならではの海の幸に恵まれています。その中でもタコは、タイと並んで明石を代表する名物です。「ひっぱりだこ飯」は、明石海峡近海で獲れた「明石だこ」と呼ばれる真ダコのうま煮などが入った駅弁です。容器は、タコ漁で使われるタコ壺を模して作られた陶器製です(図1左)。

製造元の淡路屋（現在は株式会社淡路屋）は1903（明治36）年、当時の阪鶴鉄道（現・JR 福知山線）の構内営業が認められ、大阪駅に拠点を設け、大阪・福知山間の弁当車内販売を始めました。戦後は拠点を神戸駅に移し（現在の本社は神戸市東灘区）、現在は神戸駅のほか新神戸駅、西明石駅、芦屋駅、大阪駅、新大阪駅、東京駅や東海道新幹線車内などで多くの駅弁を販売しています。「ひっぱりだこ飯」も幅広く売られていますが、1996（平成10）年に明石海峡大橋が開通したことを記念し、山陽新幹線西明石駅の駅弁として作られたものとされています（図1右）。



図2 明石市中心部。2万5千分1地形図「明石」2005（平成17）年4月1日発行

図2は、明石市中心部の地形図です。図の東寄りに明石城跡を中心に作られた明石公園があり、その南隣に山陽本線の明石駅と山陽電車（山陽電気鉄道）の山陽明石駅があります。その東、人丸前駅のすぐ北に「天文科学館」という注記が付された建物が描かれています。正式名称は、明石市立天文科学館です。明石港は、記号から地方港湾であることがわかります。明石港の東に市役所が記号で示されています。図の北西端、山陽本線と山陽新幹線とが交わるところに西明石駅があります。

▼**続き（全7ページ・「駅弁地図学」は全10回）は「地図倶楽部カフェ」【会員限定】でお楽しみください。**

「地図倶楽部カフェ」には、他に「田代博の地図と富士山の教室」（全56回）、
「島方光一の地図と資料でたどる昭和一戦争の時代」（全13回）を掲載中。